

2014(平成26)年4月には、旧高松小学校敷地内から出土した考古遺物の展示室が開室され、化石資料室とあわせて「湯沢市郷土学習資料展示施設」としてリニューアルされます。

今後も展示内容の更新、新たな展示室の開室が続いていけば、旧高松小学校は、ゆざわの郷土学習の重要な拠点になっていくことでしょう。

ジオパーク活動と地域への影響

本節で述べたように、ジオパーク活動はゆざわを変えるきっかけとなりつつあります。地域の良い部分を発見、あるいは再発見し、それを利用したさまざまな活動が動きはじめています。

また、ゆざわジオパークをめぐるジオツアーの開催も、少しずつ増えてきました。ジオツアーの参加者は、湯沢市内だけではなく、近隣の市町村などからもやってきています。

ゆざわジオパーク 16のジオサイト

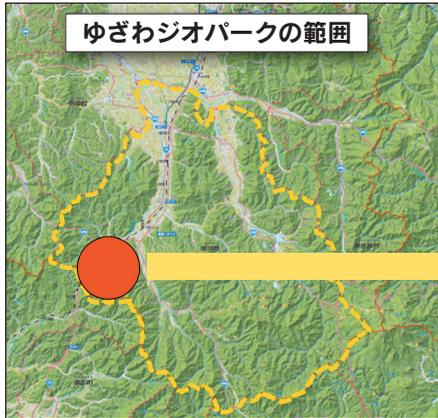
ゆざわジオパークには16のジオサイトがあり、それぞれのサイトごとに人と地球の物語を表わしたテーマを設けています。

ここでは、それぞれのサイトのテーマと物語をご紹介します。

サイト番号	ジオサイト名	サイトのテーマ
ジオサイト 1	院内	院内カルテラと歴史街道
ジオサイト 2	院内銀山	天保の盛山「院内銀山」
ジオサイト 3	小野・横堀	小野小町伝説の郷
ジオサイト 4	秋ノ宮（役内）	湯沢最古の地層にふれよう
ジオサイト 5	秋の宮温泉郷	湯めぐり散歩道
ジオサイト 6	高松（三途川・川原毛）	三途川の先には何が…
ジオサイト 7	高松	縄文遺跡とコスモス街道
ジオサイト 8	奥小安	トロッコ道とほや街道をたどる
ジオサイト 9	小安	恵まれた温泉と地熱をいかして…
ジオサイト 10	皆瀬	ダムと沼とのコントラスト
ジオサイト 11	稲川	河岸段丘に築かれた歴史ある伝統産業のまち
ジオサイト 12	駒形	鉢山から果樹へ
ジオサイト 13	岩崎	かつての独立藩
ジオサイト 14	山田	美酒を生む酒米のふるさと
ジオサイト 15	三関・須川	扇状地とともに歩む
ジオサイト 16	湯沢	湧水多き佐竹南家

※本書で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
（承認番号 平25情使、第72-GISMAP32320号）

ジオサイト1 院内 カルデラと歴史街道



ゆざわでは、富士山のように「これは火山だ!」という典型的な火山をお見せすることはできません。しかし、ゆざわには昔々に活動した火山がたくさんあります。

院内地区周辺も、昔は火山でした。そして、十和田湖のような「カルデラ」が作られました。院内地域の人々はこのカルデラの中で、火山活動の恵みである「院内銀山」や



院内カルデラ

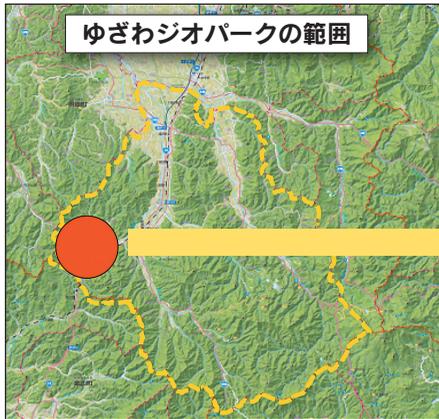


羽州街道跡

「院内石」を利用しながら、この地に住み続けてきたのです。

そして、これらの地球の作り出した資源とともに、江戸時代に整備された「羽州街道」の重要な宿場町として栄えてきました。院内のまちのあちらこちらに江戸時代からの街道の歴史をしのばせる史跡を見ることができます。

ジオサイト2 院内銀山 天保の盛り山「院内銀山」



多くの坑夫が描かれている絵図

江戸時代以降のゆざわの産業と歴史を作り、人々の暮らしを支えてきたのは、院内銀山などの多くの鉱山でした。「東北の灘」とも表現される酒造業が栄えたことなど、院内銀山と関係する物語がゆざわジオパーク内にはたくさん残っています。

院内銀山は、発見から閉山まで約350年続いた国内有数の銀山でした。特に江戸時

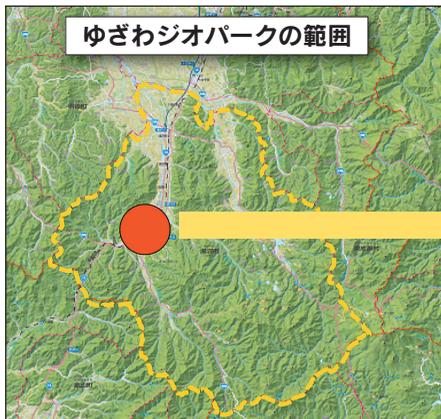
代の天保年間には、銀産出量日本一を誇り、「天保の盛り山」と称されました。その頃は秋田藩の城下町「久保田」（現在の秋田市）をしのぐ1万人を超える人々の暮らすまちであったとも言われています。



院内銀山異人館

ジオサイト3 小野・横堀 小野小町伝説の郷

ゆざわジオパークの範囲



ジオサイト3 小野・横堀



平安時代前期の女流歌人で、世界三大美女の一人に数えられる「小野小町」。小町の伝承は、各地にあります。ゆざわの小野地区にも小町にまつわる数多くの史跡や伝承が残っており、小町の生まれた地、没した地といわれています。

この地域の人々は、小野小町の伝承とともに歴史を築き、生活してきました。
(小野小町伝説…詳細は、第3章(P89)参照)



小町堂



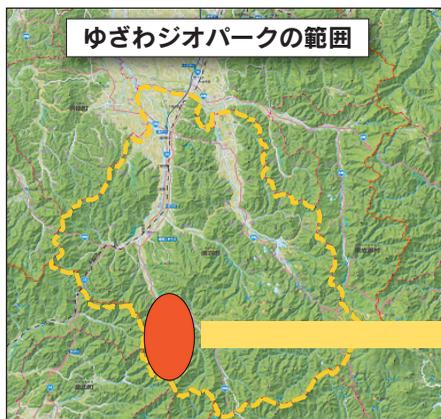
小町娘

■ゆざわは美人の郷

(湯沢市の医師・杉本博士の研究)

皮膚色調の白色度が、日本平均が約22%であるのに対し、秋田県南地方は約30%と高く、西欧白色人種に近いという結果が出ています。

ジオサイト4 秋ノ宮(役内) 湯沢最古の地層にふれよう



ジオサイト4 秋ノ宮(役内)



山形県との県境にある^{かむろさん}神室山は、古くからの山岳信仰の山で、^{しゆげん}修験の山として知られています。また、神室山は水や農業の神として^{うやま}敬われ、人々は山に登っては^{ごこくほうじょう}五穀豊穰を祈っていました。

実は神室山は、ゆざわの中で最も古い時代の岩石でできています。神室山を作る岩石は、花崗岩と呼ばれ、地下深くのマグマがゆっくりと固まって出来たものです。神室山の岩石が固まった時代は、約1億年前の白亜紀後期とされています。

この岩石は、国道108号にかかる「川井橋」付近でも見ることができます。

また、近くでは花崗岩の間から「目覚めの清水」と呼ばれる湧き水が出ていて、室町時代から、街道を通る人々の力添えの水として、長く親しまれてきました。



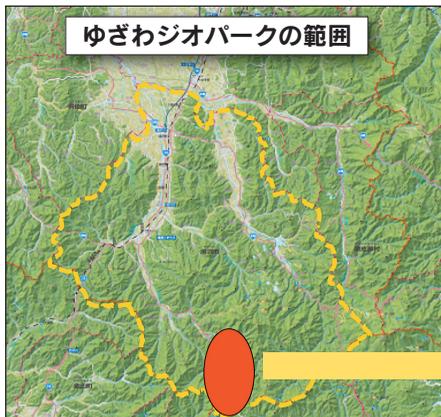
神室山



目覚めの清水

ジオサイト5 秋の宮温泉郷 湯めぐり散歩道

ゆざわジオパークの範囲



ジオサイト5 秋の宮温泉郷



秋の宮温泉郷の浴場

秋の宮温泉郷は、秋田県の南の玄関口の温泉で、国道108号沿いにあります。奈良時代、僧のぎょうぎ行基によって発見されたとの伝承が残っていて、秋田県内最古の温泉地と言われています。

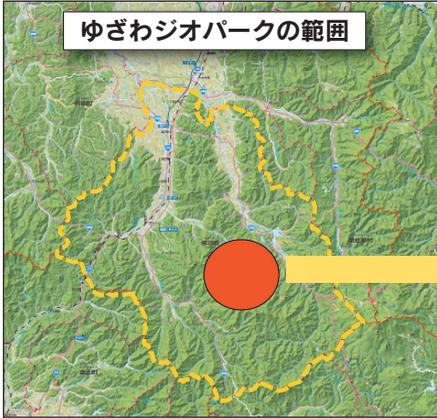
秋の宮温泉郷で温泉が湧いている所は役内川の北東側にしか分布していません。これは断層など地質的な原因によるものと考えられます。

また、秋の宮温泉郷には、世界でも極めて珍しく国の天然記念物でもある「じじょうけいせき鱒状珪石」(通称「ぶりこ石」)という、豊富な温泉に由来する石があります。鱒状珪石は、はたはたの卵に見える直径数mmの球状の石が集まってできたもので、小さな岩石片などを核とし、温泉成分が沈殿ちんでんし固まったと言われています。



鱒状珪石

ジオサイト6 高松(三途川・川原毛) 三途川の先には何が…



ゆざわの代表的な地層である「三途川層」は、三途川周辺でよく見られることから名づけられました。

三途川周辺は院内と同様、かつてはカルデラの中で、そこに大きな湖がありました。そして湖の底に厚い土砂が積り、「三途川層」という堆積層ができました。この三途川層の中から、貴重な昆虫化石や保存状態が良く細かい葉脈まで観察することができる植物化石が発見されます。

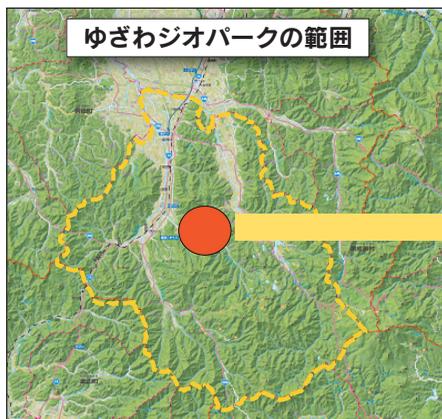


川原毛地獄

■三途川の先には…地獄？

三途川から山岳地帯に向かうと、そこには川原毛地獄があります。ここは、白い山肌と奇岩・怪岩におおわれ、いたる所から火山性ガスや水蒸気が噴き出し、草木の生えないまさに地獄のような光景です。

ジオサイト7 高松 縄文遺跡とコスモス街道



昭和60(1985)年、高松に
県道バイパス道路が完成した
ことをきっかけに、訪れる観光客を
花で迎える美化運動「コスモス
ライン」運動が地域住民の手で始
まりました。

バイパス沿いの約1kmにコス
モスの種をまいたことがこの運
動の第一歩でした。その後、地元
の小学校の児童も参加し、運動
は地域全体に広がりました。

現在では、植栽延長は14kmにおよび、約6万
本が植え付けされています。

また、この活動を支えている地域コミュニティ
組織の拠点施設となっている高松地区センター
は、平成24(2011)年から、三途川化石などの
ジオパーク学習資料や、地域内で出土した縄文遺
跡資料などを展示する郷土学習資料展示施設とし
ても活用され、地域のにぎわいを創出しています。



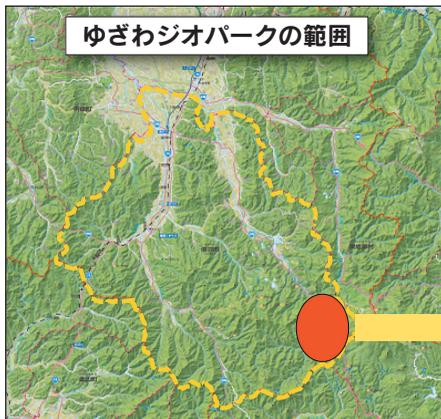
コスモス街道



郷土学習資料室
(押切伸・三途川化石資料室)

ジオサイト8 奥小安 トロッコ道とほや街道

ゆざわジオパークの範囲



ジオサイト8 奥小安



■皆瀬川トロッコ道跡

かつて小安一帯では、皆瀬川源流部の豊かな森林をいかした林業が主要産業となっていて、伐採された木材を運ぶために森林鉄道が運行されていました。トロッコ道跡は、昭和40(1965)年頃まで運行されていた森林鉄道の跡です。

地域を支えていたこのトロッコ道跡は、現在は線路が取り除かれ、歩きやすく整備されています。



トロッコ道の途中から見える人面岩



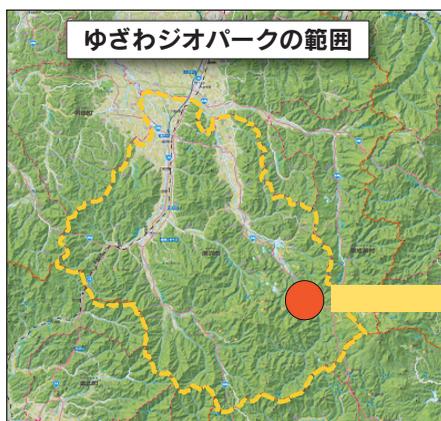
小安街道の途中にそびえたつ三本杉

■小安街道(ほや街道)

小安街道は、宮城県つぎだての築館を起点とし、花山峠を越えて、小安を通り、横手市十文字で羽州街道に合流していました。国道398号とほぼ同じルートです。

小安街道は「ほや街道」とも言われ、仙台の海産物「ほや」が、ここを通って運ばれて、この地域でもほやが食べられるようになったのです。

ジオサイト9 小安 恵まれた温泉と地熱をいかして



木地山から小安にかけては、地下深くにあるマグマの熱が、基盤の花崗岩などを加熱するため、地下の温度は非常に高温です。

また、小安周辺には、たくさんの断層や割れ目があり、水が地下深くまでしみ込みやすくなっています。しみ込んだ水が高温の花崗岩などで加熱されて軽くなり、別の断層などを伝って上昇します。その一部が蒸気や熱湯となって地表に噴出しています。

小安では、この豊富な熱水や蒸気を温泉や観光の見どころとして活用していて、小安峡温泉はゆざわを代表する温泉地となっています。



大噴湯

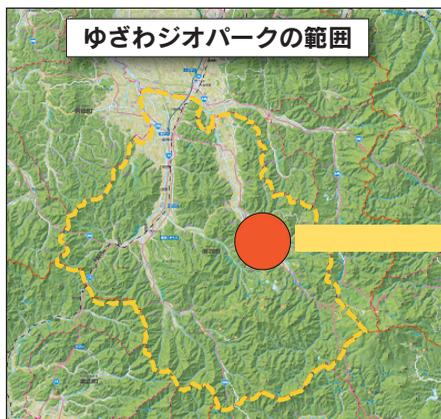


地熱利用産業

■地熱の産業利用

これまでは、温泉宿の浴槽や消雪にしか利用していなかった豊富な温泉資源は、今では農業生産や農作物の加工品等を作ることにも活用されています。

ジオサイト10 皆瀬 ダムと沼とのコントラスト



ジオサイト10 皆瀬



貝沼

皆瀬地域は、皆瀬川につくられた皆瀬ダムがあったり、火山活動後の地滑りで作られたと考えられている湖沼も多くあったりと、水に恵まれたところです。

皆瀬地域では、この豊富な水を利用して水田などの農業を営み暮らしています。

■羽場の隧道

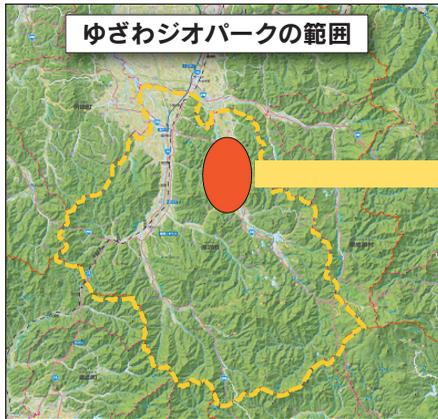
皆瀬地域は、水が大変豊富ですが、地形的制約（V字谷、河岸段丘）で農耕用の水の確保が難しい集落もあります。皆瀬ダムの東側にある羽場集落もそのひとつです。

羽場の隧道は、水利に不便な羽場集落において、約4km上流から引いている用水の管理を、少しでも楽にしようと先人達が作ったもので、ここにも人と地球の物語が見えます。



羽場隧道

ジオサイト11 稲川 河岸段丘に築かれた歴史ある伝統産業のまち



稲川河岸段丘

稲川の平地は、河川などが運んだ泥や砂などが堆積した南北に長い平野です。そして、地球の隆起運動と皆瀬川の侵食作用によって河岸段丘が作られました。

稲川ではこの段丘を活用して、生活や農業、色々な地場産業を営んできました。

■ 河岸段丘が育んだ伝統産業

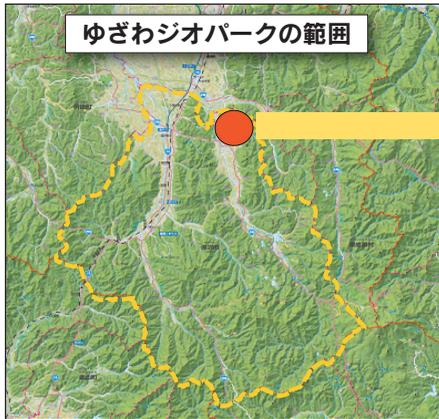
【川連漆器】 漆塗りの技術は、約800年前に稲庭城主小野寺氏が、武具に漆を塗らせたことから広まったと伝えられており、その後、川連漆器という伝統的産業として稲川地域に根付いています。

【稲庭うどん】 稲庭うどんは、日本三大うどんのひとつです。江戸時代初期に佐藤市兵衛が、地場産の小麦粉を使って干しうどんを製造したのが始まりとされています。



稲庭うどんと川連漆器

ジオサイト12 駒形 鉱山から果樹へ



駒形には、白沢鉱山、大倉鉱山、来田鉱山と、かつて栄えた鉱山が3つありました。

現在では、3つの鉱山ともその面影は全くなく、坑口跡は山林のやぶの中に埋もれています。選鉱所跡やズリ山も整地され、現在はりんご園やブドウ園として再活用されています。



白沢鉱山の坑口跡



雲岩寺のマリア観音像

■ 雲岩寺

鉱山に近い、東福寺集落に雲岩寺という寺があり、ここには、子供を抱いたマリア観音像が祀られています。

このマリア観音像は、白っぽい花崗岩を加工した石像ですが、神室山などに分布する花崗岩類とは岩質が異なり、北上山地で見られる花崗岩類の特徴を示しています。

江戸時代に鉱山で働く「隠れキリシタン」などとの関係があるかもしれません。

ジオサイト13 岩崎 かつての独立藩



■岩崎は、かつての独立藩

明治の初め、現在の岩崎地区に一つの「藩」ができました。小藩ながらも新藩の藩庁所在地として町は活気づき、藩庁を中心に武家町ができ、城下町として町政が行われ、町名がつけられました。

廃藩置県により岩崎藩は岩崎県となりましたが、すぐに秋田県に統合されました。藩設置から1年10ヶ月後のことでした。

岩崎では、現在も味噌蔵など当時の街並みを見ることができます。



千年公園

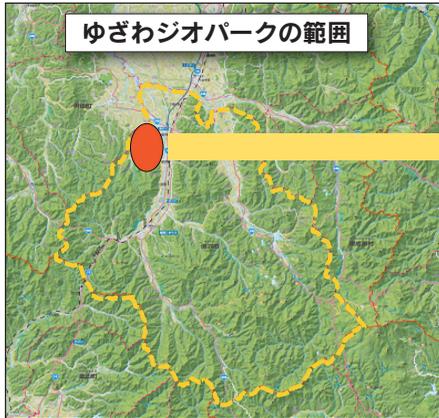
■岩崎城跡 千年公園

岩崎城跡は、湯沢市の北端の皆瀬川に面した丘の上にあります。現在は、石垣や藤棚、桜並木などが整備され城跡全体が千年公園として利用されています。公園内には玉子井戸、八幡神社、水神社、カシマサマなどがあります。



水神社の初丑まつり（裸まつり）

ジオサイト14 山田 美酒を生む酒米のふるさと



山田は、ゆざわの一大産業である酒造業の原料となっている酒米の産地です。今でこそ、広い平野を利用した田園地帯となっていますが、そこで起きた不幸な出来事も歴史に刻まれています。

■ 鉱山の負の遺産 ～松岡鉱山の鉱山廃水処理～

松岡鉱山跡は、羽後町との境、湯沢市の最北端にあります。

松岡鉱山には、製錬していた当時から公害問題がありました。鉱山経営者が鉱山廃水を用水路に流し続けたのです。これが原因となって周辺の水田が汚染されました。



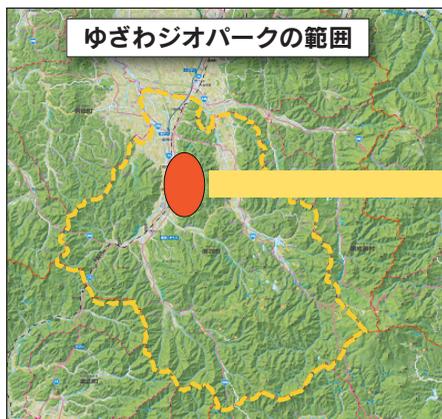
松岡鉱山跡地



現在の廃水処理場

現在は、水田の土壌改良が行われ、汚染はなくなりました。また鉱山廃水を水田に入れないため、ズリへの盛土や植林などの対策がとられているほか、鉱山廃水処理場が建設され、排水基準を満たすための処理が行われています。

ジオサイト15 三関・須川 扇状地とともに歩む



■東鳥海山断層と扇状地

三関・須川地域の東側には「東鳥海山断層」と呼ばれる長さ10数kmにわたる断層があります。そして、この断層崖^{※1}の下には小さな扇状地(三関扇状地)が発達しています。

この扇状地が、この地域の人々の生活や産業を大きく支え、ゆざわの特産品を育てています。



三関扇状地遠景

■扇状地が育む特産品

扇状地は、水はげがよくミネラルを大量に含む堆積物で出来ています。また、山地の西側に面しているため西日が良く当たります。

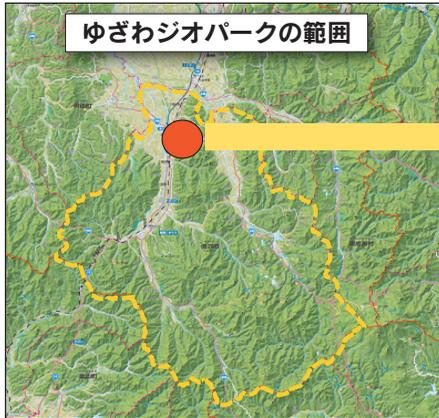
三関ではこれらの良好な条件のもと、日本一と称されるほど品質の高い「さくらんぼ」や、根まで食べられる「セリ」などの栽培が盛んに行われています。



三関のセリ

※1:断層運動によって生まれた急なガケ

ジオサイト16 湯沢 湧水多き佐竹南家



ゆざわジオパークの特徴のひとつとして、豊かできれいな水があげられます。湯沢地域には、湧水と関連した物語が多くあり、湧水で築かれた町であることがよくわかります。

■代表的な湧水＝力水

力水は、湯沢城址のふもとにあります。江戸時代にこの地を治めた佐竹南家との関わりも深い、おいしい水です。「飲むと力が湧く」と城主が愛飲したことから、力水と呼ばれるようになりました。



力水



日本酒

■湧水と酒造

ゆざわの市街地は、かねうちざわがわ鉦打沢川によって作られた扇状地に発達しています。

このため地下水が豊富で、市内のあちらこちらから湧水しており、現在も残っている井戸から、豊富な水をくむことができます。

ゆざわの主要産業である酒造業も、この地下水があったからこそ生まれた産業です。

その1 火山の恵みをいかしたもの

栗駒フーズの乳製品

栗駒フーズは、昭和62年度地域エネルギー開発利用モデル事業を活用して作られた施設です。温泉熱を利用した低温殺菌法(65℃で30分間殺菌)によって牛乳を殺菌し、乳製品を製造しています。



地熱利用農産加工所の乾燥野菜

地熱利用農産加工所は、皆瀬温水プールの向かいにあります。温泉熱を利用して、大根やリンゴ、カボチャなどの乾燥食品を作る施設です。

その工程は、原料を細かく切った後、温泉(90℃)で湯がき、その後、50~60℃の熱風を送って6~8時間乾燥させるものです。



ミツ葉

ミツ葉栽培団地は、温泉熱を利用したハウス栽培施設で、1棟100坪のビニールハウスが20棟あります。

温泉源(73℃)は、栽培団地から約2.7km離れた小安峡温泉の温泉井戸で、温泉水は、井戸から国道沿いのパイプラインで運ばれ、その後、ハウスに供給されます。



その2 あつき雪をいかしたもの

清酒

ゆざわは、東北の灘とも称されるほどの酒造業の盛んな地域です。良質な米と水、酵母の熟成を左右する冷涼な気候というジオの恵みとじに杜氏の技が融け合い、たんれい淡麗かつなめらかなのどご喉越しの「美酒」が生まれました。

清酒の新たな飲み方の提案として、清酒を氷とライムを入れたグラスで飲む「ゆざわロック」というゆざわ生まれのスタイルも定着してきています。



稲庭うどん

稲庭うどんは、日本三大うどんのひとつです。江戸時代初期に佐藤市兵衛が、地場産の小麦粉を使って干しうどんを製造したのが始まりとされています。

昭和46年、七代佐藤養助が、地場産業の育成と雇用の促進を目的とし、技術を公開して産業化し、現在の稲庭うどんの地位を築きました。



さくらんぼやセリ

豊かでおいしい水に恵まれたゆざわでは、お米を中心とした農業が盛んです。雄物川水系の最上流部のきれいな水で作られたお米はもちろん、三関扇状地の品質の高い「さくらんぼ」や「セリ」など、たくさんのおいしい農産品があります。



その3 いかして築く歴史と暮らしから生まれたもの

川連漆器

川連漆器は、河川の源流部の森林を伐採し、河川で運ぶことで発達しました。その歴史は古く、稲庭城主小野寺氏が、家臣の内職として武具に漆を塗らせたことから、その技術が広まったと伝えられています。その後、日用漆器やお椀作りが始まり、更に蒔絵や沈金^{まきえ ちんきん}などがほどこされ、高級な伝統工芸品になりました。



曲げ木家具

曲げ木家具も川連漆器同様、河川の源流部の豊富な森林から川を運んできた木材を使った逸品です。優雅な曲線を描き、軽量で丈夫な気品ある姿は、全国各地に絶大なるファンを持っています。堅木^{かたき}を蒸して型にはめ、曲げて家具を作る技術は、19世紀ドイツ発祥の技法で、ゆざわの家具職人の手によって今も引き継がれています。



こけし(木地山こけし)

こけしもまた河川源流部の豊富な森林によって支えられたものです。昔、木地山に良質の木地を求めて移り住んできた木地師が、本業のかたわら、おもちゃとして「こけし」を作っていました。現在では、その流れをくむこけし職人の手で作られています。時代の移り変わりとともに、その素朴な美しさが評判となり、民芸品や土産品として定着しています。



漬物

長い冬の積雪期を乗り越えるために、大地に育てられた地場産の野菜で作られる漬物。ゆざわらしい故郷の味わいです。



ジオツアー等のガイドのご案内

ジオガイドの会

ジオパークをより一層楽しむために、ジオガイド付きのツアーを計画してみてもう
でしょう。

ジオガイドの会は、湯沢市ジオパーク推進協議会が認定したガイドが組織する会
です。皆様のご覧になりたい場所や行程、人数に合わせてコースを相談しながら、楽しい
旅の計画を立てることができます。

また、ジオツアーに限らずジオガイドになりたい方や、一緒にジオパーク活動に携わ
りたい方などお気軽にお尋ねください。ガイド養成講座やイベントなどについてもご
紹介します。そして、どなたでもジオガイドになることができます。是非私たちと一緒に
ジオガイドを楽しみましょう。

《お問い合わせ・お申し込み先》

○湯沢市ジオパーク推進協議会事務局

TEL. 0183-73-2111 (湯沢市役所)

FAX. 0183-79-5057

E-Mail geopark@city.yuzawa.lg.jp

その他のガイド組織

ジオガイドの会の他にも、観光案内をお願いできるガイドの会がありますので、こち
らもご利用ください。(事前にお問い合わせください。)

○湯沢観光ガイドの会

TEL. 0183-78-2300 (市民プラザ内)

FAX. 0183-78-2323

○雄勝観光ガイドの会

TEL. 0183-52-5500 (道の駅おがち「小野の郷」内)

FAX. 0183-52-5566

○小安峡観光案内人の会

TEL. 090-2793-5758 (事務局 黒澤携帯電話)

FAX. 0183-47-5052

【お問い合わせ先】

総合的なお問い合わせ

湯沢市ジオパーク推進協議会事務局 TEL. 0183-73-2111
(市役所まるごと売る課ジオパーク推進室内)

博物館・資料館等

湯沢市院内銀山異人館 TEL. 0183-52-5143
湯沢市高松郷土学習資料室 TEL. 0183-79-3370
川連漆器伝統工芸館 TEL. 0183-42-2410

案内拠点施設

道の駅おがち「小町の郷」 TEL. 0183-52-5500
小安峡総合案内拠点施設 TEL. 0183-47-5820
市民プラザ TEL. 0183-73-2300

おわりに

いかがでしたか？「ジオパークとは、●●である」ということにたどり着いていただけましたでしょうか？

このガイドブックは、ゆざわジオパークの人と地球の物語を、多くの人に知ってもらうために作られています。このガイドブックだけでゆざわジオパークの全てが分かるものではありません。これをきっかけに是非、まだまだ奥の深いジオパークというものを見て、調べて、そして知って、楽しんでもらいたと思います。

最後になりますが、このガイドブックを作るにあたってご協力をいただいた皆様と最後までお読みいただいた皆様に感謝をいたします。ありがとうございました。

参考資料

- ・「平成25年度版 湯沢市行政資料」(湯沢市)
- ・「平成22年度学術調査報告書」(湯沢市ジオパーク推進協議会)
- ・「平成23年度学術調査報告書」(湯沢市ジオパーク推進協議会)
- ・「平成24年度学術調査報告書」(湯沢市ジオパーク推進協議会)
- ・「平成25年度学術調査報告書」(湯沢市ジオパーク推進協議会)
- ・「秋田県の文化財」(秋田県教育委員会)
- ・「お宝発見ハンドブック-動物植物地質鉱物編-」(秋田県教育委員会)
- ・「お宝発見ハンドブック-工芸技術編-」(秋田県教育委員会)
- ・秋田県教育委員会(編)『秋田県民俗分布図 緊急民俗調査報告書』
- ・秋田県総合地質図幅「秋ノ宮・栗駒山」(秋田県)
- ・秋田県総合地質図幅「稲庭」(秋田県)
- ・安藤和風(編)『秋田県案内』
- ・稲川町教育委員会(編)『稲川町史』
- ・稲雄次「秋田県雄勝町御返事のカシマツツリ」(『秋田県民俗』16,p59-61所収)
- ・雄勝町観光協会(編)『小野の里 雄勝町 観光協会のあゆみ』
- ・雄勝町伝承行事等調査(編)『雄勝町の年中行事と昔の遊び』
- ・神野善治『人形道祖神 境界神の原像』
- ・佐々木詔雄(監修)『歴史を刻む「銀山と関所」の町 院内』
- ・柴田庄太郎『高松叢史』
- ・菅江真澄(著)内田武志ほか(編訳)『菅江真澄遊覧記1』
- ・菅江真澄(著)内田武志ほか(編訳)『菅江真澄遊覧記5』
- ・高橋岩五郎『地域づくり住民賛歌』
- ・田山花袋(編)『新撰名勝地誌 巻5東山道東北部』
- ・地域地質研究報告「湯沢地域の地質」大沢 穠、大口 健志、高安 泰助(地質調査所)
- ・東京女子大学史学科民俗調査団(編)『雄勝役内の民俗』
- ・戸部一斎正直「奥羽永慶軍記 復刻版」
- ・梶谷明「蕨霊考」(『國學院雑誌』67-3,p46-55所収)
- ・丸山祐松(編)『裏日本実業案内 羽越版』
- ・皆瀬村史編集委員会(編)『皆瀬村史』
- ・山田の民話集刊行会(編)『山田の民話集』
- ・山田の昔を語る会(編)『山田の語り草 総集編』
- ・湯沢市史編さん会事務局(編)『湯沢市史』
- ・錦仁『浮遊する小野小町』
- ・西宮藤毅(編)『秋田県温泉のしるべ』
- ・柳田國男「河童駒駒引」(『定本柳田國男27』所収)

《WEB》

- ・秋田県立図書館デジタルアーカイブ <http://da.apl.pref.akita.jp/lib/> (2014年1月30日閲覧)
- ・秋田地方気象台 「秋田県の四季」 <http://www.jma-net.go.jp/akita/4season/4season.htm>
- ・稲庭うどんの麻生孝之商店「稲庭うどんの歴史・概要」 <http://inaniwaudon.com/history/>
- ・環境省「秋田県の代表的な湧水」 <http://www.env.go.jp/water/yusui/result/sub4-2/PRE5-4-2.html>
- ・環境省選定「名水百選」ホームページ
<https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/meisui/data/index.asp?info=11>
- ・気象庁 「天気図」 <http://www.jma.go.jp/jp/g3/>
- ・日本気象協会 「全国の過去の天気」 <http://tenki.jp/past/detail/?day=5&month=2&year=2014>
- ・湯沢市観光情報web「稲庭うどん」 <http://aios.city-yuzawa.jp/kanko/tokusan01-02.htm>
- ・林野庁 東北森林管理局 秋田森林管理署 湯沢支署「森林の市町村別面積」
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/yuzawa/annai/menseki.html>
- ・林野庁「水源の森」百選 「大滝沢国有林」
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/suigen/hyakusen/010.html>
- ・私の森.jp 森のクイズ 森は水を保つ? http://watashinomori.jp/quiz/quiz_03.html

スタッフ

〔執筆〕 沼倉誠、畑山良栄、小松雅、遠藤大介、

川邊絢一郎（湯沢市ジオパーク推進協議会事務局）

〔編集協力〕 柴田百子、武石清香（同事務局）、阿部哲矢（小安峡観光案内人の会）

〔制作〕 秋田魁新報社

ゆざわジオパーク総合ガイドブック

2014年3月 印刷・発行

編者・発行者 湯沢市ジオパーク推進協議会

印刷・製本 秋田活版印刷株式会社

